

日産財団ニュースレター (第55号)

2020年1月発行



公益財団法人
日産財団
NISSAN GLOBAL FOUNDATION

◆ 2018年度助成校・団体の活動紹介

2019年11月に訪問した学校・団体の実践を紹介します。



福島県 二本松市立小浜小学校



5年生「流れる水のはたらき」で、小浜地区を襲った台風19号による被害や土地の様子の変化を、流れる水のはたらきと関連付けながら考える授業。グループに分かれて担当地域の被害を受けたところを自分たちで撮影して、地形図にその写真を貼ったり説明文を書き込んだりして、被害状況をまとめた(写真左・右)。その後、どこで被害が起きたのか、何故被害が起きたのかを、小浜地区を流れる川の様子や地形と関連付けて確認した。

栃木県 栃木市立栃木中央小学校



特別支援教育公開研究発表会の様子。認知特性・発達状況を把握することで、ひとりひとりのつまずきに応じた学び合いを研究するユニバーサルデザインの視点を当てた、日産財団理科教育助成の中でもユニークな授業実践。6年生「てこのはたらき」の授業で、てこの規則性を利用した道具を集めて仲間分けし、その仕組みについて説明するものであった。学習のルーチン化や板書の工夫、予想されるつまずきに対する指導・支援がなされていた。

神奈川県 川崎市立東菅小学校



6年生「土地のつくりと変化」(写真左)と3年生「ものと重さ」(写真中)の授業の様子。思考のすべとして「比較」と「関連付け」を授業の中に位置づけ、6年生は、土地のつくりは流れる水のはたらきと土の粒の大きさに関係している、粒の大きさの違いで層を作っていることを確認した。3年生は、ものを変えると重さも変わるのだろうか、について粘土の形を変えて実験、考察した。授業後は、分科会、全体会も実施された。

栃木県 足利市立桜小学校



3年生「じしゃくのふしぎ」では、磁石を利用したゲームで遊びながら磁石のハテナを見つけて、磁石についての興味関心を高めた(写真左の2枚)。4年生「ものあたままり方」では水槽の中の空気を白熱球や電熱器で温めて、煙の動きやサーモテープ、デジタル温度計で温度変化を観察した(写真中右)。6年生「発電と電気の利用」では、タブレットのプログラミングスイッチを操作して、人が近づくと自動で電気が点灯し、離れると消灯するプログラミングを行った(写真右)。

栃木県 佐野市立出流原小学校



6年生「発電と電気の利用」の授業の様子。児童たちは明かりを節約して使うプログラミングを個人でワークシートを使って考えたのち、グループで共有する(写真右)。その後、micro:bitを使ってペアで実際にプログラミングを行い(写真中央)、人感センサーなどを搭載した実験盤で自分たちのプログラミングが正しく動作するか試している(写真右)。

教えて！ 日産財団ってどういうところ？ どんな人たちが働いているの？

新シリーズ
日産財団の紹介

第3回 未来人材開発グループについて

今年度より新たにスタートする『未来のリーダー教室』を運営するグループです。Society5.0(超スマート社会)をリードする人材づくりを目指して、初等中等教育段階において、リーダー資質を萌芽・育成することを狙って企画しました。ご参加をお待ちしております。

新しいプログラムでもあり、手探りの状態ではありますが、未来の日本を支えるリーダー育成の一助となるよう、奮闘しておりますので、ご期待頂ければと思います。

他者紹介

- ◆ 技術のスペシャリスト
- ◆ 優しさの中に気骨あり
- ◆ 癒し系スマイルお父さん



ダイレクター
大谷 利一

私は日産財団の一員となり、間もなく3年が経ちます。少人数ですが全員一丸となって、「人を育て、豊かな未来を実現する」ための各プロジェクトを進めています。今後ともよろしくお願い致します。

他者紹介

- ◆ 気配りのエキスパート
- ◆ 『漢』
- ◆ ベラベラの英語で、外国要人にもお・も・て・な・し



プログラム
コーディネーター
石坂 美佳子



次回は
総務グループです。
お楽しみに！